

まちづくり懇談会（障がい者）報告書	
障がい者団体との懇談会	平成 30（2018）年 12 月 13 日（木）午前 10 時 00 分～11 時 40 分 会場：多治見市役所本庁舎 参加者：9 人
発達支援センターなかよし保護者会	平成 30（2018）年 12 月 18 日（火）午前 10 時 00 分～11 時 30 分 会場：発達支援センターなかよし 参加者：9 名
発達支援センターひまわり保護者会	平成 30（2018）年 12 月 19 日（水）午前 10 時 00 分～11 時 30 分 会場：発達支援センターひまわり 参加者：4 人
<p>1. 少子化と地域</p> <p>①子どもが減少し町内会を脱会する方が多い。町内会イベントも参加者数が少なくなっている。</p> <p>②地域で声かけ・見守り等ができる、地域で子どもを育てていく土壌を作っていきたい。</p> <p>③まちづくり行事などで大人が学生ボランティアと共に、地元の為に活動する姿を子ども達に見せていく事も必要ではないか。</p> <p>④若い世代、核家族、転入者、障がい者は地域と繋がりが持ちにくい。また、障がい児を持つ家族が孤立しないように、早期からサポートする体制が必要。</p> <p>⑤子どもたちが集まる場があり、集まるきっかけを増やして欲しい。</p> <p>⑥ろう学校は名古屋・岐阜にしかなく、近場で集まれる場があると良い。</p> <p>⑦地域の公民館での活動に支援（補助）をして欲しい。</p> <p>⑧広小路商店街は高齢者しかいない。高齢者の集まりに若い人も参加できる活動や長久手・日進市を参考に駅前を開発し、元気なまちをつくっていかなければ子どもは増えない。</p> <p>⑨多治見には若い人が集まる場・施設がない若い人が集う（家族で出掛けられる）商業施設があるとよい。</p> <p>⑩空き店舗を有効に利用するとよい。</p> <p>⑪公園が少なく、外で子どもを遊ばせにくい。（可児や春日井へ行っている）</p> <p>⑫地場産業の衰退、団地の過疎化、Uターンしない。子ども達が進学などで外に出ても戻って来るまちづくり、地元で就職できるような環境が求められる。</p> <p>⑬脇之島地区は空き家が多く、入ってくる若い世代も少ない。市に何か起爆剤があれば人口が増える。</p> <p>⑭障がい者は昔と比べて生活しやすくなったが、充分とは言えない。働く場や、重度の子どもを支援する施設を充実させてほしい。</p> <p>⑮療育センターを統合する話があるが、利便性を重視して欲しい（さわらび学級が移転によりボランティアが通いにくいという話を聞く）ボランティアが入ることは大変ありがたく、地域との繋がりにもなっている。ボランティアが参加しやすい環境も大切。</p> <p>2. 多治見らしさ</p> <p>①駅北虎溪用水広場は人が集まって活気がある。多様な年代が楽しめ、車いすでも楽しめるイベントがあってよい。</p> <p>②駅前、創造館、オリベストリートは活気がない。駅南を盛り上げていく必要がある。</p> <p>③「広場」があると人が集まり、にぎわいの拠点となる。</p> <p>④駅南再開発の中で子育て施設や障がい者が作った製品、市の特産を販売できるアンテナショップの設置。また、清掃業務など障がい者に働く場の提供もお願いしたい。</p> <p>⑤多治見市には、国宝級の人やものがあり、案内できるツアーで観光客や子どもたちにその魅力を発信できるとよい。</p>	

- ⑥外国人に魅力あるまちであることをもっとPRすべきである。
- ⑦滝呂には作陶体験をしながら1ヵ月間滞在できるところがある。多治見市は、京都、金沢や高山への拠点となるように外国人にPRして、観光化を盛り上げてみてはどうか。(滞在型)
- ⑧多治見の資源を活用し、マイナスをプラスにする発想も大事。
- ⑨まちづくりのイベントで障がい者を理解してもらうような企画をしていきたい。大人が若い世代につなぐ、伝えていく事が大切。

3. 療育について

- ①幼稚園、保育園では手厚く見てもらえる、小学校もせめて低学年のうちはもっと手厚くみて欲しい。
- ②就学前は発達支援センターや保健センターで相談ができるが、就学後は安心して相談できる場がないのではないか不安。
- ③現在2校ある通級を全校に広めて欲しい。
- ④就学に向けて普通学級か通級か選択する際の親のストレス(不安)は大きい。その先の見通しなど、きめ細かくサポートして欲しい。
- ⑤幼稚園、保育園、学校の先生に療育の知識が薄いと感ずるため専門性を高めて欲しい。
- ⑥重度障がい児を持ち、子どもの為にも保育園に入れたかったが、仕事が見つからず(育児に手がかかり仕事の選択肢も限られる)幼稚園に入園した。保育園の入園条件の緩和を望む。
- ⑦療育での情報を園・学校で共有して欲しい。不登校にもつながりかねない。

4. その他

- ①希望ヶ丘では、近くのスーパーに買い物に行こうとしても車がないと行けない。地域が高齢化していく中で、交通問題など地域の課題を解決するためには、地域の人財を育成していくことが必要である。また、企業のサービスを上手に利用することも大事。(西友の宅配サービスが利用者少なく廃止になった様だ、知らない人も多かったのではないかPRも大事)
- ②保健センター、愛児幼稚園の跡地は好立地。使えるうちは有効に活用して欲しい。障がい者や子どもが集まることのできる施設になればよい。
- ③基幹相談センターが設置される予定であるが、障がい者の拠点となる場を増やして欲しい。
- ④災害時こそ障がい者は大変である。そのことを周囲の人に理解して欲しい。
- ⑤災害時、障がい者の避難所として協定を締結した施設に対して市から実践的な指導がない。
- ⑥高齢者施設は充実しているが障がい者施設は不足している。障がい者の自立を支援して欲しい。
- ⑦交通手段がなくなってきた。駅まで出る手段の確保が課題。
- ⑧多治見は渋滞が多い。また、免許がないと不便、公共施設など使う人が多い施設への交通手段を整備して欲しい。
- ⑨ききょうバスは姫や笠原には通っていないが、祖母は便利に使っているようだ。
- ⑩未満児保育の定員が少ない、兄弟で別の園に入れざるを得ないことも多く大変である。
- ⑪育休中上の子が未満児だと3か月で退園となる仕組みを改善して欲しい。